

今生きる子どもたち

(4)

貧困と格差の拡大のなかで

「おれ、11月にパパになるんだ。絶対かわいがるし」——マサタカ(17)の自尻は下がりっぱなし。隣で妊娠4ヶ月を迎えたマミナ(17)は通信制高校3年生が「家事もお願いね」と笑います。

「中3家出」宣言

マサタカは転居したばかりで友だちが一人もない学校で中学生生活を始めました。知り合って間もない同級生の母親に、「中3になつたら家出す」と宣言。「そのため友だちをたくさんつくるんだ」といいました。

中学校ではすぐに「問題児」扱いされるようにするようになりました。

マサタカの住むアパートは「たまり場」となり、生活が荒れた子どもたちが酒やたばこに手を伸ばす空間となりました。万引きの「戦利品」で祝杯をあげる子どもたち。集まるのは、家庭や学校に居場所がない子どもたちでした。

「食事がきちんととれていないらしく」という連絡が、人づてにかつての教師に殴られたり蹴られたり。休みがちになり、私服で校内に入っています。

生活指導の教員に追いかけられたこともあります。同級生が「今は助けてはいらない。助けが必要になつたらうから」といいました。早く親から自立したかったマサタカは、「高校には行かない」と決意。「この親方は信頼できる」と友人

サタカは父親のいる町に引っ越していきました。中3の秋になつて、

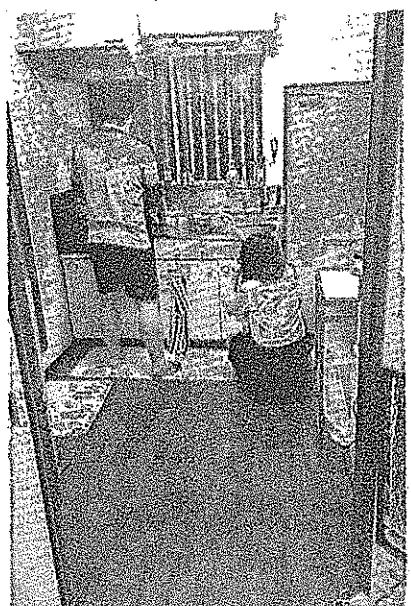
自分の成長実感

エネルギーをもてあまり、壁に穴をあけたり、公園のトイレのガラスを割つたり。他校の生徒と殴り合いになつたこともありました。中2の冬、マサタカが被害者となる事件が起き、「たまり場」は消滅しました。春、マ

同級生の母親に「今は助けはいらない。助けが必要になつたらうから」といいました。早く親から自立したかったマサタカは、「高校には行かない」と決意。「この親方は信頼できる」と友人

職人としての道を歩き始めたマサタカ。「仕事をこなしていくなかが速いって先輩にほめられた」とうれしそうに報告します。まかされた仕事をこなしていくなかで、自分の仕事が評価されることに喜びを感じ、自分の成長が実感できるようになりました。そばにいつもマミナがいました。

「お金の心配はあるけど、愛情の心配はないよ」と、マサタカはいいました。



2人のアパートのキッチンで

「お金の心配はあるけど、愛情の心配はないよ」と、マサタカはいいました。

(文中仮名。つづく)